

荒川の豊かな自然「三ツ又沼ビオトープ」は、流域の学校や園、企業や団体などが関わることで、守られています。2020年度第3号では、近隣の小中学校等と連携して取り組む2つのプロジェクトの実施状況を皆さんに紹介します。

## 荒川ハンノキ・プロジェクト

### 上尾市立太平中学校



プロジェクトでハンノキを植栽している  
「ハンノキ広場」で活動を実施

三ツ又沼ビオトープではこれまで荒川ハンノキプロジェクトの一環で、近隣の小中学校と連携して、埼玉県の蝶である「ミドリシジミ」が舞うようなハンノキ林の再生に取り組んできました。今では、三ツ又沼のそばに高さ10mほどのハンノキの林ができています。今年の6月にハンノキの幹を見たところ、ミドリシジミの卵が産みつけられていました。

### ハンノキ林の保全活動を実施

9月26日(土)、太平中学校科学部の生徒が、ミドリシジミのために三ツ又沼ビオトープのハンノキ林を保全する活動を行いました。昨年度に学校で育成して植え戻したハンノキの生育状況を確認し、植栽したハンノキとその周りのハンノキに絡みつくつる植物等の除去を行いました。

### 学校で育てるハンノキも順調

今年も、三ツ又沼ビオトープに植え戻すためにハンノキを学校で育成しています。鉢ごとに育ち具合に差はありますが、それぞれ順調に育っています。



鉢で育成しているハンノキ (9月9日撮影)

### 川島町立つばさ南小学校



ビオトープを  
散策する3年  
生の皆さん



三ツ又沼協の  
ハンノキ林で  
ミドリシジミ  
の卵を観察

### 3年生、社会科見学で地域の自然を観察

10月19日(月)、つばさ南小学校3年生の児童が、社会科見学の一環で、三ツ又沼ビオトープを見学しました。三ツ又沼までの道中で、あらかわ市民環境サポーターによる案内のもと、ジョロウグモやヒバカリなど、ビオトープに生息する動物を観察しました。また、レモンエゴマやカキドオシなど植物の香りを嗅いでみるなど、五感で自然と触れ合いました。



ミドリシジミはハンノキの幹  
に直径1~2mm程度の小さな卵  
を産みつけます。

# 荒川の草花を育てようプロジェクト

荒川流域にもともと生育する野草「荒川の草花」がたくさん見られる荒川の原風景を再生するために、荒川の草花を育てて増やす取り組みが進められています。

## プランターやビオトープで在来の草花を育成

プロジェクトに参加する各校・園でメハジキ、キンミズヒキなどの荒川の草花を育てています。

### 上尾市立平方北小学校



平方北小学校では、今年たねをまいたメハジキが、プランター一杯に広がっていました（左）。昨年、校庭のビオトープに植栽したメハジキも育っていました（右）。（9月29日撮影）

### 上尾市立富士見小学校



富士見小学校では、屋上にあるビオトープだけでなく、今年度から校庭でもキンミズヒキやカワラケツメイなどの草花を育てています。（富士見小学校提供）

### しのめキッズパーク保育園



しのめキッズパーク保育園（上尾市）では、職員がビオトープ委員会をつくり、草花を育てる活動を行っています。園庭ビオトープで生育しているユウガギクは花満開の様子でした。（9月29日撮影）

### 上尾市立太平中学校



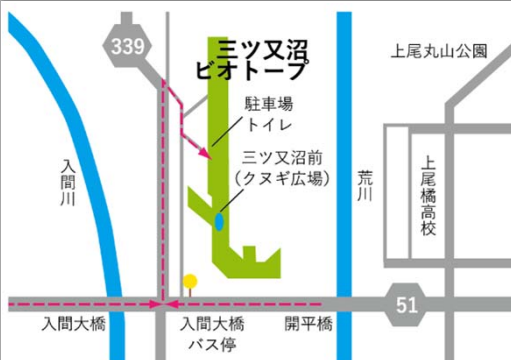
太平中学校では、ハンノキ（表面）とともにカワラケツメイ（左）やメハジキ（右）も育てています。（9月9日撮影）

### 川島町立つばさ南小学校



つばさ南小学校では、7月に畑に植栽したキンミズヒキに種子がついていました。種子はブラシのような形で「ヒツクグサ」と呼ばれることがあります。（9月9日撮影）

## アクセス



## 荒川の自然を守るボランティア募集

外来植物の除去などビオトープの自然を守る活動を行います。活動を通して、荒川の自然や生きものに触れ合えます。荒川の貴重な自然が残る「三ツ又沼ビオトープ」を共に守り育てましょう！

※三ツ又沼ビオトープでの保全活動に3回以上参加すると、「あらかわ市民サブ環境サポーター」（荒川上流河川事務所内のサポーター事務局にて登録）に申請できます。サブサポーターになると、小中学生等の環境学習や企業の社会貢献活動を行う際のサポートや、ビオトープの今後の保安全管理について話し合うミーティングに参加できます。三ツ又沼ビオトープの保安全管理に、より主体的に関わりたい方はぜひ、サブサポーターに申請をお願いします。